

定例研究会要旨

日時：平成 27 (2015) 年 6 月 17 日 18:00~20:00

会場：東京外国語大学 語学研究所

「2 大子音類の横断的分類にかかわる音声特徴の解明：グイ語の舌頂クリックの事例研究」
 発表者： 中川 裕（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 言語学・音声学）
 アナトリ・ヴァフロメーエフ（東京外国語大学大学院博士後期課程）

本研究は世界の言語の子音を 2 分する音類であるクリック子音と非クリック子音という 2 大子音類に関わる音韻論上の理論的な問題を取り扱う。この問題を考えるために、具体的な事例として、コイサン諸語のコエ・クワディ語族に属するグイ語のデータを使い、パラトグラフィーおよび舌・顎の撮影という調音音声学的観察と波形およびスペクトルを用いた音響音声学的な分析を行って 4 種類のクリック・タイプがもつ重要な音声的特徴を解明した。そして、解明した音声特徴（音声的基礎をもつ音韻素性）が、2 大子音類の横断的分類を可能とすることを示した。

本研究は[!, †, ʔ]という 4 種類の舌頂クリック・タイプを対象とする。これらは、従来の研究では調音的な用語によって記述され分類されてきたが、そこには 3 つの問題が認められる。第 1 に調音点の用語の混乱、第 2 にクリックと非クリックの横断的分類が明瞭に出来ていない点、第 3 にクリックに関わる重要な音類を十分に捉えることができないという点だ（重要な音類とは(1)通言語的頻度パターンに読み取れる[ʔ]と[†!]; (2)後続母音の制限から同定される[!†]と[!ʔ]; (3)クリックから非クリックへの音変化によってリンクされる[!ts]と[†c]と[!k]）。

結論として、下表に示すように調音点素性（横軸）と調音法素性および音響素性（縦軸）を同定することができ、それによるクリック間の対立関係のより良い理解と 2 大子音類の横断的分類、クリックに関わる音類の素性的表現が可能となった。

表：2 大子音類の横断的分類

Place →	coronal							dorsal
	laminal					apical		
	dental			palatal		alveolar		
Affricate	-	+	+	-	-	-	+	-
Lateral	-	-	-	-	-	-	+	-
Compact	-	-	-	-	-	+	+	+
Grave	-	-	-	-	-	+	+	+
Example	t	ts	l	c	ʧ	!	ʔ	k